

粕谷和夫の観察日記。田んぼアート、今年は越谷の田んぼ。越谷と言えばシラコバトの生息地。もしやこのハトに出会えるかと期待して越谷駅から歩いていきました。結果は暑いだけで空振り。ここの今年の田んぼアートは「マツケンサンバ」ごみ処理施設の隣の展望台からの眺めで、冷房の効いた部屋で体を冷やしました。

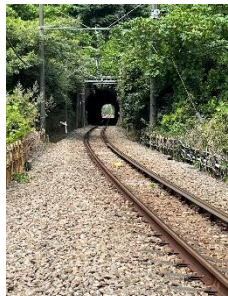
紅葉台



新聞

第147号
2024年
9月14日
発行人：関谷 孝

戦後79年の夏 八王子列車空襲



1945年8月5日 八王子列車空襲が蛇滝近くの「湯の花（いのはな）トンネル」で起きました。終戦直前の8月2日、東京大空襲に並ぶ八王子大空襲が3日前に起きていました。そして8月5日、国鉄中央線新宿発長野行き下り普通列車が長野に向かって浅川駅を出て間もなく「湯の花トンネル」入り口付近で米軍機に機銃掃射され、

52以上の方が犠牲になりました。（この話は昨年も取材し紅葉台新聞90号に掲載しました。）

八王子空襲で不通になっていた中央本線がようやく復旧し、再開後初の中距離列車として自宅や疎開先に向かう人などで超満員でした。午後0時20分頃東の空から米軍機4機が飛来して列車に機銃掃射を浴びせた。当時は木造の列車だったため銃弾は貫通したくさんの人が亡くなりました。（写真・現在は中央本線上りトンネルになっている）

今年も慰霊のため、曾木さん（みころも保育園園長）と取材に行きました。今年もNHKの取材班と読売新聞が来ていました。NHKでは8月13日「おはよう首都圏」（7:15～）・8月16日（金）までに「首都圏ネットワーク」（18:10～）放送されました。

この地域は荒井と言って地域の人たちが戦争の爪痕を風化させないために毎年「いのはな慰霊の集い」を有志の方たちと行っています。昨年は生き残った92歳の黒柳美恵子さんが新聞報道を見て初めて集いに参加しました。銃撃で2歳年上の姉を亡くされたそうです。もう証言者はいないかと思っていたところに想いもかけない参加者に皆さん驚いたそうです。

この日も真夏の日差しが照り付け、蝉が鳴く蒸し暑い日でした。線路わきの献花台には白い菊の花が用意され、訪れた人たちが手を合わせました。慰霊の会の齊藤勉会長、根岸さん親子が、当時の様子を話してくれました。同じ5日「ガラスのウサギ」で有名な高木敏子さんの父親が襲撃された二宮駅から八王子までは、今では圏央道が一直線に通っています。多分相模川沿いに米軍機が来たようです。このルートは横田・入間基地に抜ける道です。米軍が装備するガンカメラでは手に取るように地上の様子が分かったそうです。民間人をも狙ったのは、戦争に協力しているからだとの言い訳でした。戦争とはこんなにも悲惨なことだと後世に伝え、繰り返してはな



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。



らないとの思いを強く持ってほしいと話していたことがとても心に残りました。そのためにも慰霊の会を続ける意味があると思います。（写真中央は齊藤さん。八王子の戦争について研究調査されています。）

その後、実際にトンネルの近くに行きました。当時は猪の鼻にトンネルが似ているとのことでこの名前が付いたそうです。今では名前はそのままですが「湯の花」との字になったそうです。現在、いのはなトンネルの上は圏央道の大きな道路橋が架かっています。高尾山はミシュラン3星ですが、その裏の小仏川沿い（甲州街道）にはこんな戦争の跡が残っています。皆さんも是非見学に訪れてみませんか。実際に行ってみると「自分の感性で感じるものがある」と根本さん親子（写真右）が話していたことに頷きました。



追伸：NHKの放送もたくさんの方に見ていただき、「近くに住んでいながら知らなかった」との感想も多々ありました。現在の高尾駅のホームには弾痕の後が残されています。

粕谷和夫の観察日記



毎月野鳥の定期カウントをしている八王子の川町谷戸でクサギが満開になりました。枝葉をちぎると独特の匂いがあるため、昔から「臭木」とされていますが、現代人はこれを「良い香り」と認識する人が増えています。実はクサギ染の大切な材料ですね。若芽や若葉はあえ物、煮つけ、天婦羅などにして食用できます。花の蜜を求めてアゲハチョウの仲間が集まりますが、この日は熊蜂が10匹くらい集まっていました。



この実は平安時代には、種子を炒って菓子として食べたり、太平洋戦争中は、この種を炒ってコーヒーの代用としていたりしました。

夏の浅川の河原を散策していたら、アオギリの実が垂れ下がっていました。アオギリは、木の幹が青く（緑色をしている）、葉は桐の葉と大きさなどが似ていることから、『アオギリ（青桐）』と名付けられました。実は、花より断然目立ち、垂れ下がった犬の耳のような面白い形。私にはボートに人が乗っているように見えます。

粕谷和夫の観察日記。田んぼアート、今年は越谷の田んぼ。越谷と言えばシラコバトの生息地。もしやこのハトに出合えるかと期待して越谷駅から歩いていきました。結果は暑いだけで空振り。ここの今年の田んぼアートは「マツケンサンバ」ごみ処理施設の隣の展望台からの眺めで、冷房の効いた部屋で体を冷やしました。